

みなさんこんにちは、県立生涯学習推進センターメールマガ担当です。

毎年8月1日から7日は「スター・ウィーク～星空に親しむ週間～」だそうです。それを知ってか知らずか、小学4年生の息子と娘が、授業で使った『星座早見表』を手に、「夏の大三角はどこだ～」などと言いながら星空を観察していました。幼稚園年長組の息子もその脇で望遠鏡代わりにラップの芯を覗き込みM78星雲（ウルトラマンらの故郷）を探していました。

「こと座のベガ」「わし座のアルタイル」「白鳥座のデネブ」。この3つの星を結んでできるのが『夏の大三角形』、と小学生の時に習った記憶があるのですが、実は『夏の大三角』が正しい名称だということを、昨年、マリノランド陸中で行われた海の子野外教室での星空観察会で初めて知りました。みなさんは知っていましたか？

そして、この3つの星にまつわる更に有名なものが「七夕」。天の川の西岸に住む織姫が上手な織姫と、東岸に住む働き者の牛使い・彦星が、織姫の父親である天帝のすすめで結婚したところ、仲良く遊びほうけて、2人とも全く仕事をしなくなり、「いいかげんにしろ！」と天帝が怒り、天の川を隔てて、2人を引き離してしまいました。すると、今度は2人とも悲しみに沈んで全く働かなくなってしまったので、天帝は「きちんと働いたら、年に一度『七夕の日』だけ会っても良い」と約束したところ、2人は心を入れ替えて一生懸命働くようになり、年に一度、天の川を渡り、再会するようになったというお話。

夏の大三角のベガを織姫に、アルタイルを彦星として星に願うイベント。7月7日のイメージが強いと思いますが、県内のイベント情報などを見ていると、8月に七夕まつりを行う地域も多いようです。

- ・盛岡七夕まつり 毎年8/4～8/7
- ・江刺夏まつり「七夕まつり」 毎年8/6～8/7（2021年は中止）
- ・大船渡市盛町灯ろう七夕まつり 毎年8/6～8/7（2021年は中止）
- ・陸前高田市高田町うごく七夕まつり 毎年8/7
- ・陸前高田市気仙町けんか七夕まつり 毎年8/7（2021年は中止）

これは旧暦の7月7日にちなんだ頃に行っているため、国立天文台では旧暦の時と同様に七夕を楽しめるよう旧暦での七夕の日付を定め、「伝統的七夕」と呼ばれています。2021年は8月14日、2022年は8月4日、2023年は8月22日、2024年は8月10日となっています。

太陽暦（現在の暦）の7月7日は梅雨の時期。雨に見舞われ、星が見えない可能性が高い時期。また、晴れていたとしてもアルタイル（彦星）が東の地平線沿いに見えることが多いので、星のイベントとして七夕を楽しむには「伝統的七夕」の頃がイイかもしれません。

と、ここまできて「白鳥座のデネブ」（夏の大三角の一つ）のことを紹介していないことに気付きました。デネブも七夕の話に大きく関わっています。デネブの正体は鳥のカササギ。（カササギなのに白鳥座…。まあ、細かいことは気にしません）雨で天の川の水かさが増してしまうと織姫と彦星は会うことができないため、天帝の使いであるカササギが天の川の上で翼を広げて二人の橋渡し役となっているというわけです。

織姫（ベガ）も彦星（アルタイル）も、そして二人の間を流れる天の川も、橋渡しのカササギ（デネブ）も肉眼でしっかり見えますので、星座早見表やその機能を果たすアプリ、ラップの芯などを手にしながら、親子で「伝統的七夕」を楽しんでみてはいかがでしょうか。もしかしたら、M78星雲に向かって飛んでいくウルトラマンも見えるかも…。

ちなみに、短冊に願い事を書くようになったのは江戸時代の寺子屋で、字が上手になることを祈ったのが始まりとされています。そのような歴史から、短冊の願い事は「〇〇が欲しい」といったものより「〇〇が上手になりたい」といった技能などの上達を願う方が良いとされています。

子育てに関する悩みを一緒に考えます☆

子育て電話相談「すこやかダイヤル」 0198-27-2134

☆メルマガへのご感想、アドレス変更・配信停止はこちらへ(^_^)/

kosodatem@pref.iwate.jp

★=====★

【発行・文責】岩手県立生涯学習推進センター

【HP】 <http://www2.pref.iwate.jp/~hp1595/>

【Facebook】 <https://www.facebook.com/manabinetiwate/>

【Twitter】 <https://twitter.com/manabinetiwate>

★=====★